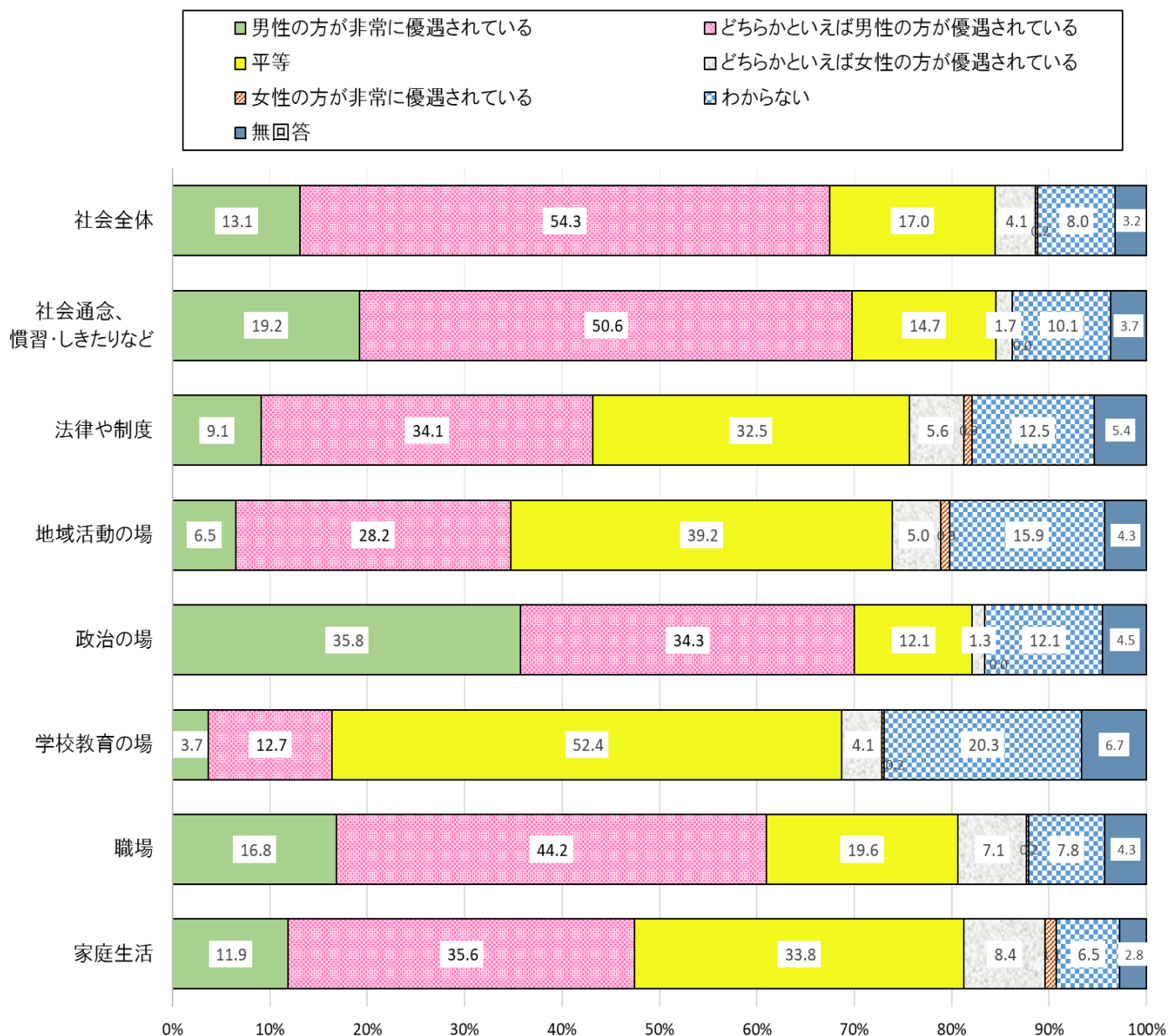


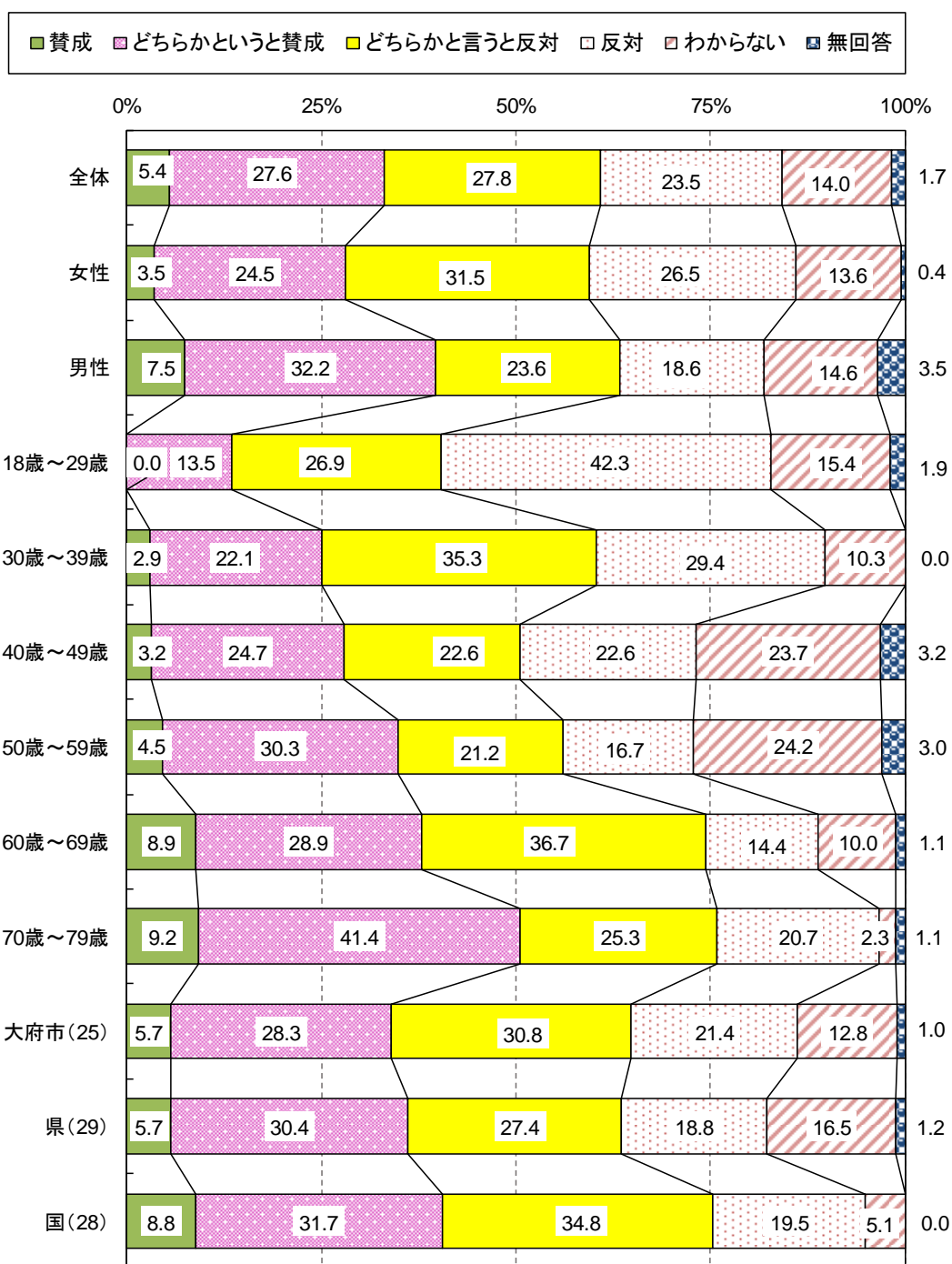
## 男女共同参画に関する市民意識調査結果（令和元年度） 概要

### ○男女の平等感

社会全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている。」が54.3%と最も多く、「男性の方が非常に優遇されている」（13.1%）と合わせると、67.4%が男性の方が優遇されていると回答している。



○「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について  
 「賛成」が5.4%、「どちらかという賛成」が27.6%で合わせると、33.0%が賛成と回答している。一方、「反対」が23.5%、「どちらかと言うと反対」が27.8%で合わせると、51.3%が反対と回答している。前回調査の52.2%から微減している。

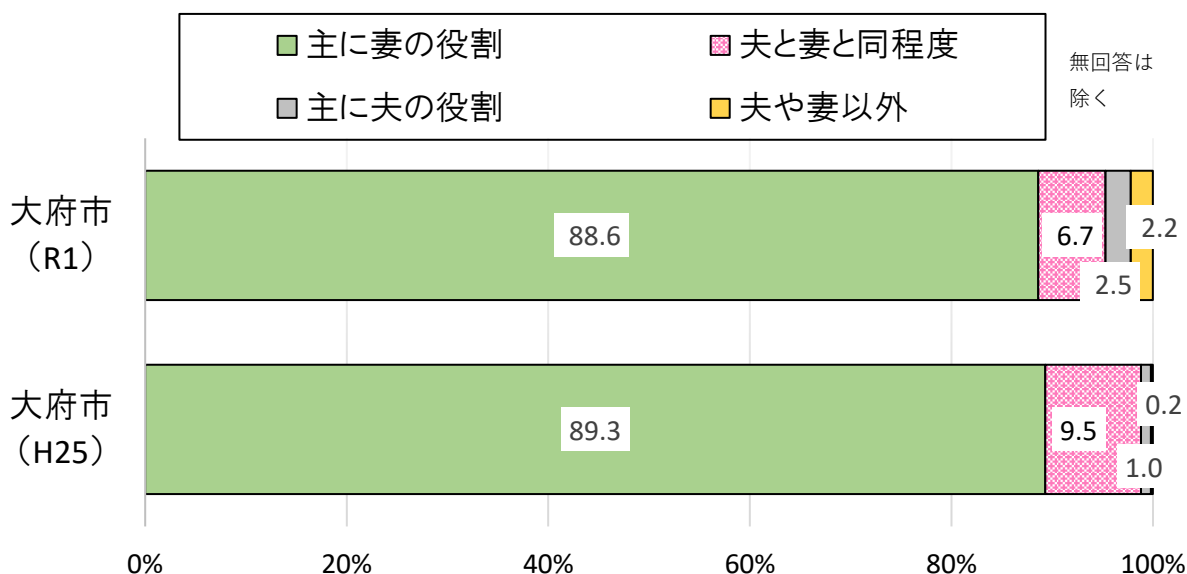


○家事分担について

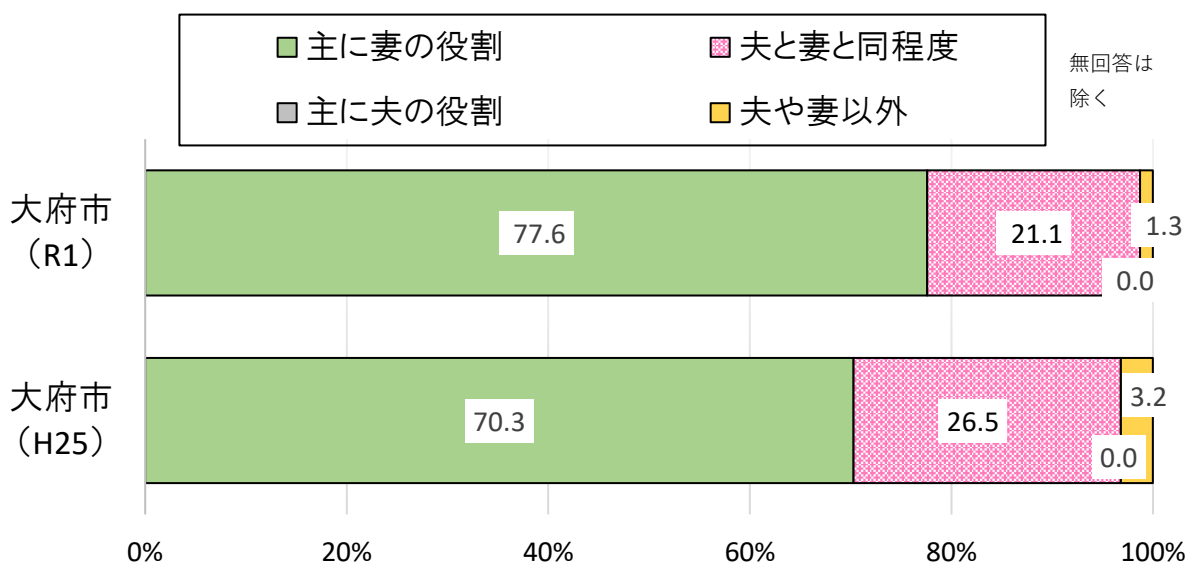
※H25 調査では「結婚（事実婚含む）している方のみ回答」としているが、R1 調査では、「現在同居している配偶者がいる方のみ回答」としている。

また、比較のため R1 調査結果から無回答分を除いて再集計している。

①食事の支度



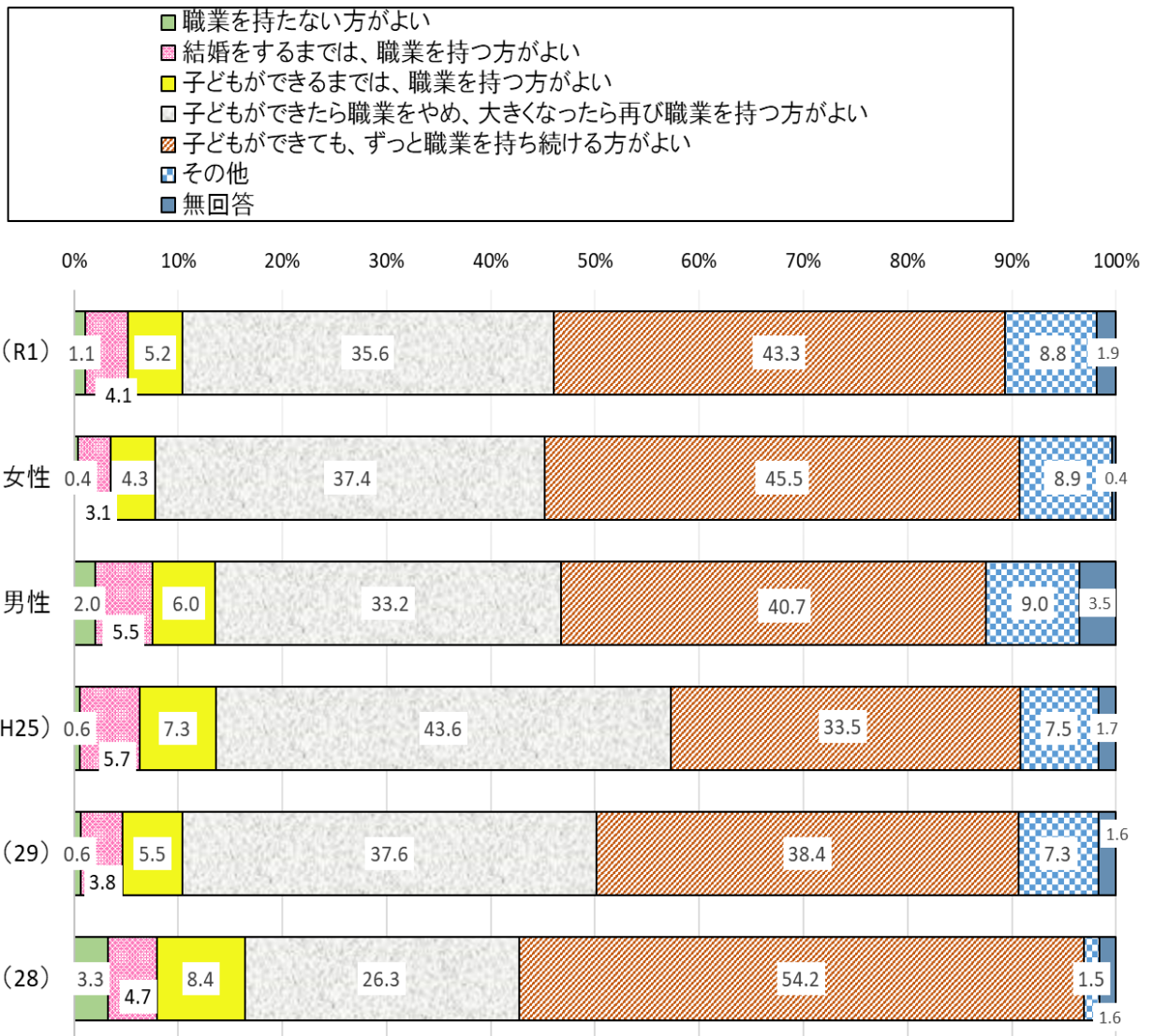
②育児（乳幼児の世話）



○女性が職業を持つことについて

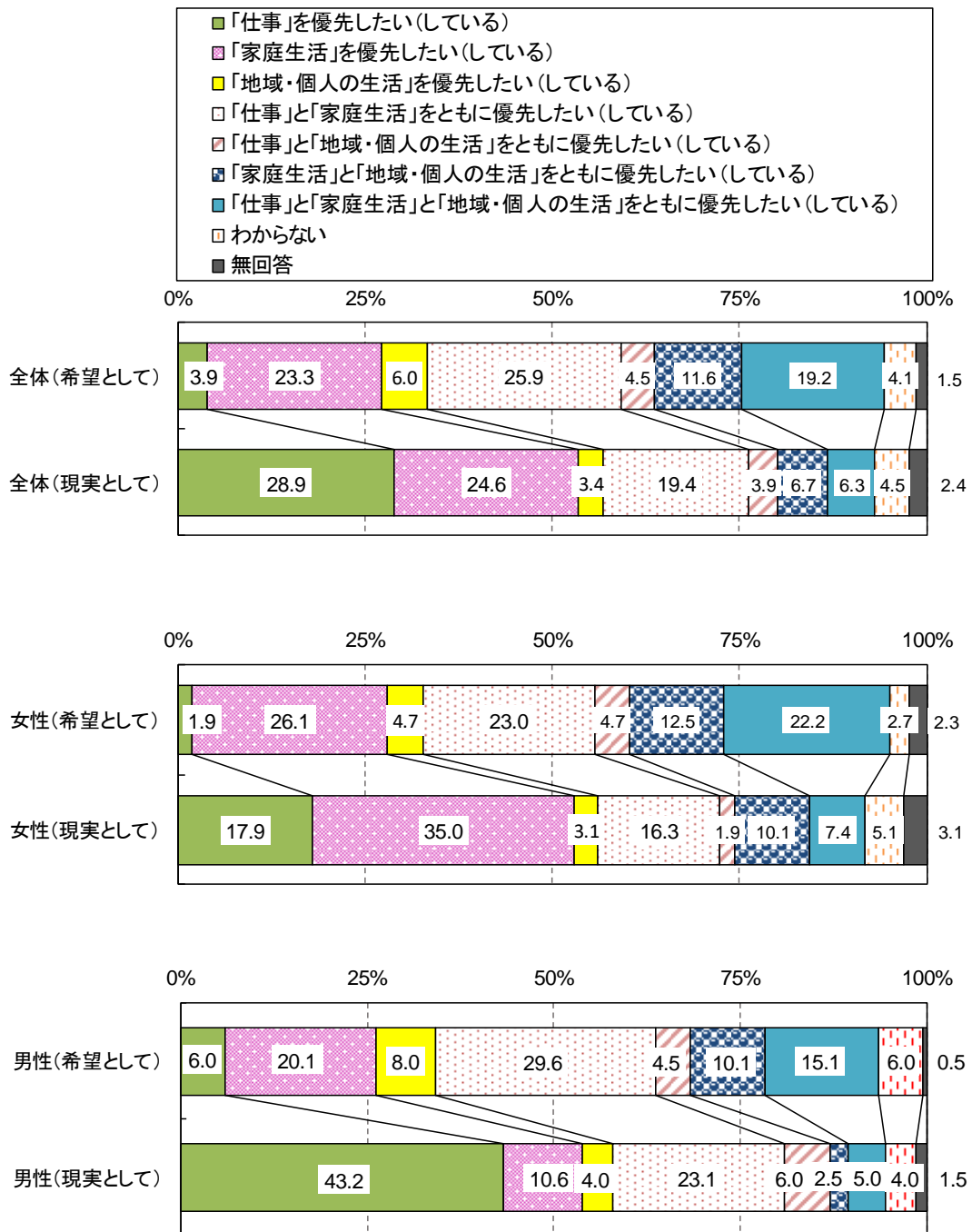
全体では、「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」が43.3%と最も多く、次いで「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」(35.6%)、「子どもができるまでは、職業を持つ方がよい」(5.2%)の順となっている。

前回調査と比較すると、「子どもができて、ずっと職業を持ち続ける方がよい」という回答が増加している。



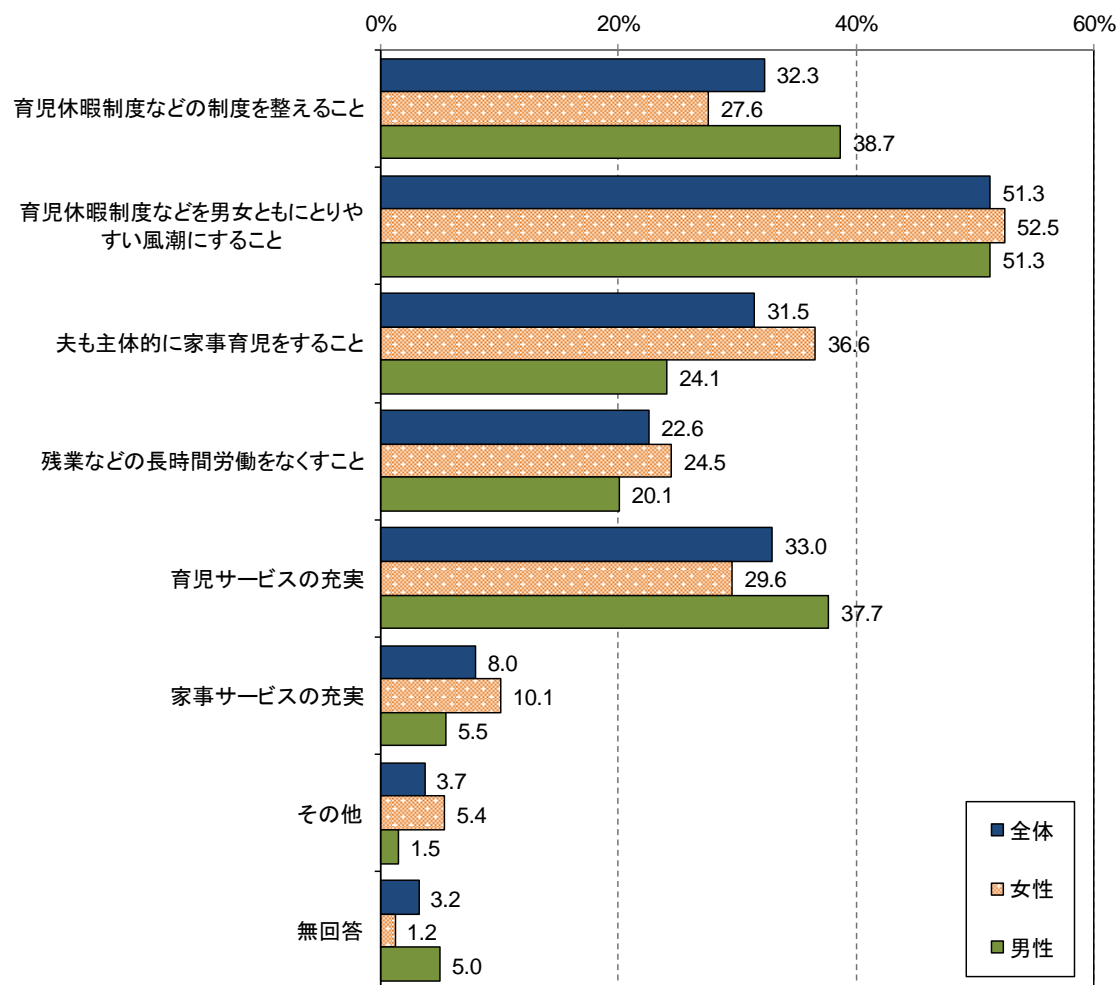
○ワーク・ライフ・バランスの希望と現実について

希望で比較的回答が少なかった、「仕事」を優先したい」という回答が、現実では非常に多くなり、希望で比較的回答が多かった「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」の割合が、現実では少なくなっている。



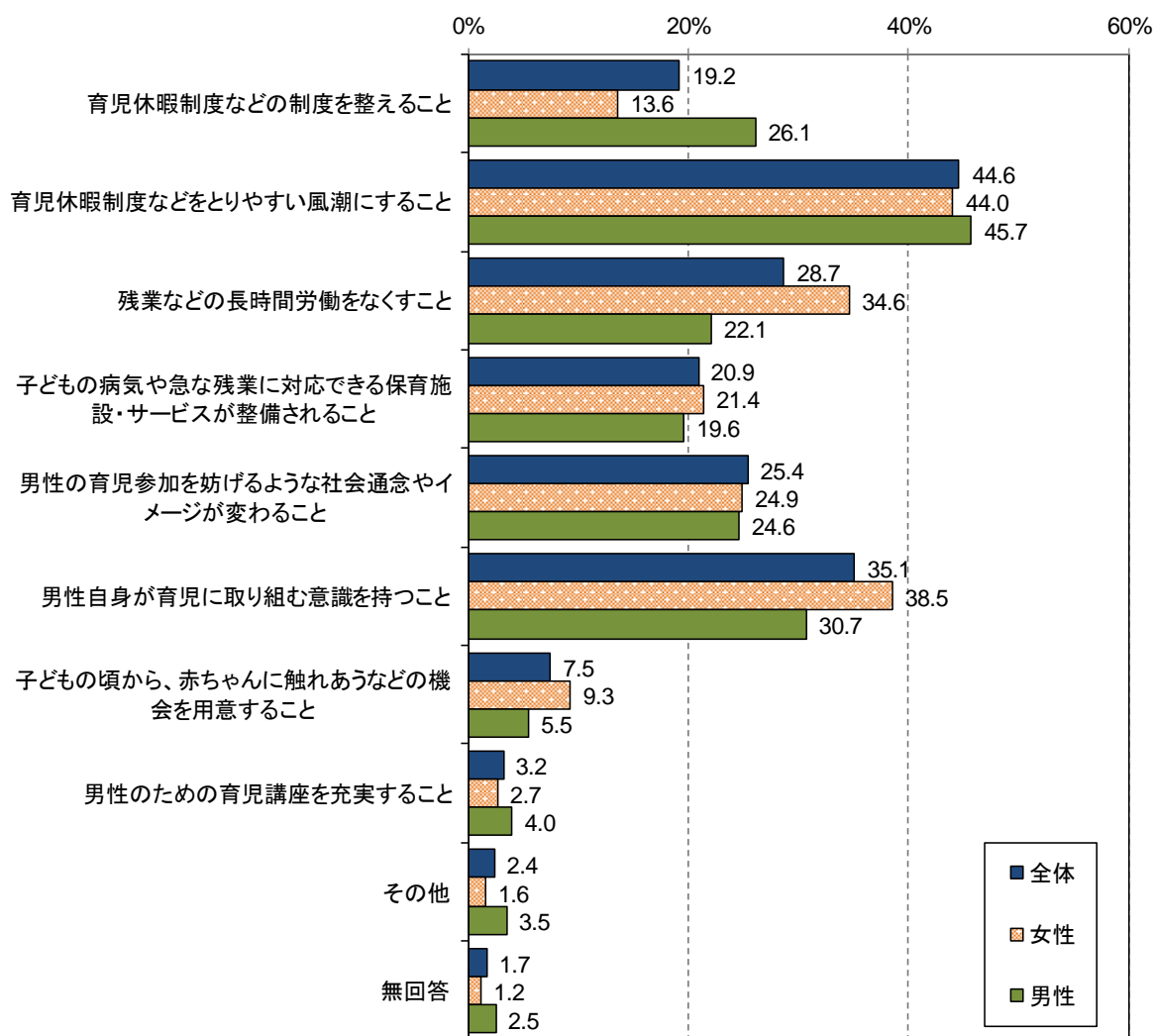
○女性が子育てしながら働き続ける希望を叶えるためには何が必要か。

「育児休暇制度などを男女ともにとりやすい風潮にすること」が51.3%と最も多く、次いで「育児休暇制度などの制度を整えること」(32.3%)、「育児サービスの充実」(33.0%)の順となっている。

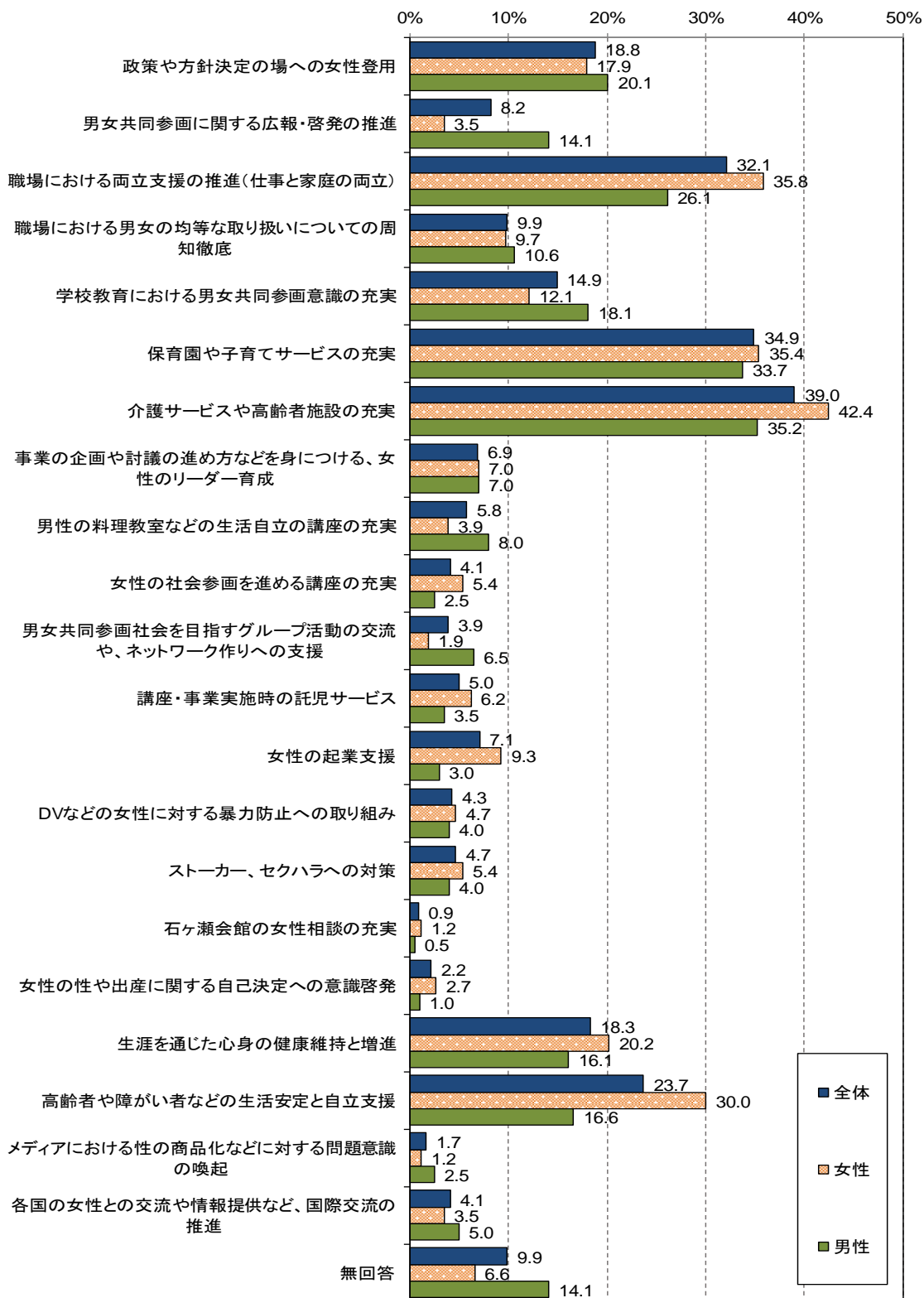


○男性が積極的に育児に取り組むためには、どのようなことが重要となるか。

「育児休暇制度などをとりやすい風潮にすること」が44.6%と最も多く、次いで「男性自身が育児に取り組む意識を持つこと」(35.1%)、「残業などの長時間労働をなくすこと」(28.7%)の順となっている。



○ 「男女共同参画」社会の実現に向けて今後大府市において力をいれて取り組んでほしいと思う事業は何か。





○ 「男女共同参画」社会の実現に向けて大府市においてはすでに**取り組みが進んでいる**と思う事業

